

《令和2年度 純心中学・純心女子高等学校 学校自己評価表》（報告）

学校教育目標	カトリシズムの建学精神に基づき、学園の理想とする聖母マリアの心(清く・かしこく・やさしい)に倣い、豊かな人間性を育む女子教育を行う。とくに、「マリア様 いやなことは 私がよるこんで」を学園標語として、祈り・感謝・奉仕の心で生きる力を育て、女性としての大切な愛の心を培う。さらに、正しい、判断力 創造的な思考力を高め、社会に貢献できる女性の育成を目指す。
学校経営方針	1聖母マリアを理想と仰ぎ、鋭敏なる良心と正確なる判断力を育成し、強固な意志を以って聖母の諸徳、わけても純潔・謙遜・清貧・慈愛・忍耐・慎みの徳を体得するよう努力して、生涯を生きる力を養う。 2寸暇を惜しんで積極的によく勉学する習慣を養い、天賦の個性を伸ばし、知能の啓発と教養の向上をはかり、品位高く聡明な女性となるよう努力する。 3 勤労を重んじ、保健衛生に留意し明朗にして健康な心身を養う。
重点努力目標	点と点をつなぐ ・心を一つにする(マタイ18.18～20) ・「同じ」と「変化」に気付く ・目標に向かって進む

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目標	指標・具体的方策	評価	成果と課題
(1) 学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神、中長期的なビジョンを踏まえた目標となっている。	3.5	本校の建学の精神及び教育方針そのものであり、本校の存在意義でもある。それを踏まえて作成した、具体的な重点努力目標を元に教育活動に努めている。
			教育課題や生徒の実態を踏まえて、目標の具現化に努める。	3.5	
(2) 学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	3.4	幼稚園や大学を含めた純心女子学園において作成している「中期目標計画」に則り、PDCAサイクルにのせて実践、評価、見直しを行っている。本校の教育活動についての地域への広報等については弱いので、改善を図りたい。
			教育目標や経営方針等を生徒・保護者・地域等に説明したり、広報したりすることに努めている。	3.3	
			学校での日常の教育活動の中で、「月訓」に基づいた指導が配慮されている。	3.5	
(3) 学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	3.5	学年の目標設定については、重点努力目標を踏まえた適切なものとなっており、定期的な学年会議を通じた共通理解のもと統一的な指導を行っている。
			必要に応じ学年会議を開き、目標の達成状況、指導上の課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	3.4	
(4) 学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級経営を行う。	3.3	年間2回の「相談会(三者面談)」を実施しているが、コースや学級の実態に応じ、随時「個別面談」を実施し、円滑な学級運営に努めている。
			個別面談を学期に1回以上実施し、学級生徒の多面的理解を深める。	3.7	

2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価					
評価項目	具体項目	目標	指標・具体的方策	評価	成果と課題
(1) 教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	3.4	生徒の希望する進路に応じたコース制及び選択制を導入し、課外の時間も利用し進路指導に取り組んでいるが、教員の働き方改革の影響も危惧している。
			教育課程の実施にあたって、教育目標の達成状況を定期的に点検する。	3.3	
(2) 教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する。	3.8	「シラバス」の作成配布、「研究授業」、「授業見学」「授業評価」については、確実に実施している。
			教科の専門性を高め、指導力の向上に努め、効果的な授業を行うための研究や研修を深める。	3.3	
			わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、生徒による授業評価を実施する。	3.8	
	教材の精選及び教具の活用	生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。	生徒の実態に応じて教材を精選したり、教育機器等を用いたりして、指導を工夫する。	3.5	中高全クラスにICT設備が完備されている。中高ほとんどの授業でICTを活用し、学習意欲と理解度の向上につながっている。
			手作り教材を作成するなどして学習意欲の喚起に努める。	3.4	
	生徒の自主的な学習	授業以外の部分でも、生徒自身の目標に応じた自主的な学習を促す。	補習や模擬試験等を適切かつ効果的に実施し、生徒の希望進路の実現を目指す。	3.4	高校ではNOLTY手帳を導入しており、自主的計画的な学習活動につながっている。課外の補習を講座制・希望制に見直し、生徒の要望と実態に応じた選択ができるようにした。
			効果的な家庭学習がなされるよう、学習内容や課題を工夫する。	3.4	
			放課後等の図書館、自習室、CALL教室(英検・TOEIC自主学習用)の利用を効果的に行う。	3.4	
適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	年度当初に担当教師間で評価基準を話し合い、共通理解のもとで評価を行う。	3.5	評価については、各教科で共通認識のもと、適切に行っている。	
		評価をその後の授業にフィードバックし、指導と評価の一体化を図る。	3.4		
ICT機器を活用した指導	ICT機器を利用して生徒自身が主体的対話的で深い学びを実践する。	効果的なICT機器の活用がなされるよう、課題や学習方法を工夫する。	3.6	中高ほとんどの授業でICT機器を利用し、効果的な授業方法の確立に取り組んでいる。	
(3) 総合的な学習の時間	ねらいが明確で創意工夫を生かした活動	学習指導要領のねらいを踏まえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。 長崎純心大学との連携を強化し、将来を見通せる視野を身につける。 純心中高独自のキャリア教育の構築を行う。	生徒に身につけさせたい力を明確にし、各学年のねらいに沿った学習活動を展開する。	3.4	中高各学年毎のキャリア目標を設定し、コースや学年の性質に応じた多様な取り組みを実施した。「科目等履修制度」などの長崎純心大学との連携が新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。
			高大連携教育の時間を見直し、中高生のキャリア教育に繋がる機会となるように改善する。	3.4	
			基礎学力向上の目的で、純心大学の先生達との連携による言語力向上のための学習活動を展開する。	3.5	
			長崎純心大学との連携によるキャリア教育の一環として、「科目等履修制度」、「職業を知る講演会」や「職業体験・ボランティア体験」を実施する。	3	
			総合的な学習の時間の内容を中高6年間を見通して展開する。	3.5	
(4) 特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	3.5	ホームルーム活動は、年間計画に基づいて充実している。また、球技大会、学園祭等の学校行事は、生徒が主体となり、活発に活動している。
	生徒会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒の自発性・自主性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる。	3.3	
	学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行い活動内容を工夫する。	建学の精神の具現化を目指し、効果的な学校行事となるよう、生徒の実態に即した活動内容を工夫する。	3.4	
ホームステイの機会(学校交流)を活用し、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることで、語学力向上につなげる。			3.5		
(5) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員であいさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	「挨拶」を学校生活の基本と位置づけ、生徒間だけでなく、来校者にも丁寧な挨拶を心がける。	3.5	服装・容儀、挨拶等の基本的な生活習慣については概ね良好である。現在教師による朝の交通指導を実施しているが、働き方改革の影響を危惧している。
			服装・容儀等について、生徒心得を中心に生徒・保護者に説明をした上で理解と協力を得る。	3.4	
			教職員間での共通理解のもと、共通した姿勢での指導に当たる。	3.4	
			普段の学校生活において、個別面談等を通して基本的な生活習慣の確立に努める。	3.5	

(6) 進路指導	進路指導の 充実	系統的・計画的な進路指導 を行う。	進路選択に役立つ情報を学年に応じて系統的に提供 する。	3.4	進路指導部を中心に進路に関する 情報提供は充実しているが、 新型コロナウイルス感染症の影響 で、一部の学年、コースでの みの進路説明会実施となった。
			進路実現に向け、模擬試験や検定試験、講演会、面 談等を計画的に行う。	3.2	
(7) 教育相談	教育相談の 充実	生徒の持つ悩みや困難の解 決を援助する。	必要に応じ、学校カウンセラーとの連携を図り、保 護者の理解と協力を得られるよう努める。	3.6	SCとSSWを含む教育相談部体制 は充実し、援助が必要な生徒の 早期発見対応に成果をあげてい る。
			不登校・いじめなど生徒の動向を細かく観察して問題 等を的確に把握し適切に対応する。	3.3	
(8) 読書教育	読書活動の 充実	読書活動を通して、豊かな 人格と落ち着いた生活態度 を養う。	校内「読書指導委員会」を組織して、読書力向上を検討 し、活動の充実を図る。	3.5	「L時間」、「朝読書」、「図書 だより」など生徒図書委員を中 心とした本校の読書活動は外部 からも評価されている。今後 も、更に読書活動を充実させて いきたい。
			生徒図書委員による「図書だより」を定期的(2ヶ月に 1回)に発行する	3.7	
			図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの 拡大を図る。	3.5	
			定期的にL時間を実施し、良書紹介と読書の楽しみを 広める。	3.5	
			朝の10分間読書が、確実に実施され、生徒の「読書 習慣」の定着を図る。	3.3	
			「読書」の習慣を通して「読む・書く・考える・伝える」力 をつけ、全生徒が「作文」や「詩」等の作品コンクール に応募する。	3.6	
(9) 健康・安全教 育	健康や安全 に対する態 度の育成	健康・安全な生活を送るた めの指導を行う。	校内衛生管理委員を選定し、教職員・生徒の心身の健 康について、保健主事・養護教諭・担任等の連携を密 にした指導を行う。	3.5	学校保健年間計画及び学校安産 年間計画により、生徒の健康と 安全維持に取り組んでいる。学 校三師を交えた年間2回の学校 保健委員会は、新型コロナウイ ルス感染症の影響で書面実施と なった。
			安全確保について、生徒や保護者への啓発を促し組 織的に対応できる危機管理体制を整える。	3.5	
			ホームルーム等の指導を通して、交通安全教育や安 全衛生教育を徹底する。	3.5	
(10) 人権・同和教 育	人権尊重に 対する普遍 的価値観の 醸成	人権尊重に関するさまざま な課題を認識させ、解決の ための実践力を身につけさ せる。	ホームルーム等を通して人権尊重の意識を高め、日 常生活を見直す。	3.3	カトリックの精神に基づき、す べての教育活動を通して、人や 社会を大切にする心を育ててい る。
			教科指導や、日常の学校生活、行事等、あらゆる活 動を通して人権尊重の意識を持った指導に配慮す る。	3.3	
(11) 部活動	部活動の活 性化	部活動への参加を奨励し、 活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足 度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支 援を行う。	3.4	多くの生徒が部活動に参加し、 積極的に活動している。顧問 教師も献身的に取り組んでい るが、今後は、働き方改革の影響 を危惧している。
			部活動によって、生徒が達成感を持ち、好ましい人 間関係づくりや個性の伸長を図るよう支援する。	3.5	
(12) ボランティ ア活動	ボランティ ア活動の充 実	ボランティア意識の高揚を 図る。	ボランティア情報を提供し、主体的な参加を奨励す る。	3.6	日常の掃除から奉仕を目的と した行事にいたるまで、積極的 に取り組んだ。また、学校外から の要請にも可能な限り対応し、 教年前から、山里地区の小中 学校と合同で清掃奉仕活動を実施 している。
			施設等への訪問活動や環境美化などの身近で取り 組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成す る。	3.4	
			錬成会(1年生)での奉仕活動を通し、評価や報酬を求 めない本来の奉仕の精神を体得する。	3.6	
			学校生活で培った「言語能力」やそれに基づく「コミュ ニケーション力」を具体的な「奉仕活動」の場に生か す。	3.3	
(13) 資格取得	各種資格取 得の奨励	個に応じた指導の一環とし て、各種資格取得を奨励す る。	全員受験である「英語検定」の合格率を上げるため、 様々な取り組みを行う。TOEICの受験も奨励す る。	3.5	英検対策講座、英検まつり、純心 英語セミナー等の取組を通して、 学校全体で英語に積極的に取り組 む姿勢が高まってきた。
			「漢字検定」等に果敢に挑戦することを奨励し、学 習意欲の喚起につなげる。	3.3	
(14) 労作活動	錬成会の充 実	集団生活や労作活動の意義 をふまえ、錬成会の諸活動 に臨む。	農作業をはじめとする労作活動に積極的に取り組 む。	3.4	本校独自の歴史ある「錬成会」 は、宿泊訓練、奉仕活動、団体 生活、農作業を通じた食育など を通して、人間的にも大きく成 長できる行事であり、生徒も積 極的に参加している。今年度は 新型コロナウイルス感染症対策 のため、宿泊はせず日帰り実施 となった。
			集団生活を通し、互いの協力や譲り合いの精神を養 う。	3.4	
			自然に親しみ、農作物の恩恵を実感することで、日 常の「食事」に対する感謝の気持ちを養う。	3.4	

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価					
評価項目	具体項目	目標	指標・具体的方策	評価	成果と課題
(1) 校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	3.3	校務分掌に沿って、各部署適切に業務にあっているが、今後更に、組織的、系統的に整理し、円滑な運営ができるように、学校組織マネジメント改革を考えていきたい。
			校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図る。	3.4	
			分掌ごとの業務記録、資料保存に努める。	3.4	
(2) 各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	3.3	各委員会で目的に応じた話し合いがなされ、教育活動に生かされている。反面、多くの委員会活動が教員の業務過多にもつながっているため、委員会の整理も必要である。
			各種委員会での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教育活動や学校経営等に生かす。	3.3	
(3) 校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	3.6	今年度は、「ハラスメントについて」及び「生徒の満足度を上げるための施策の検討」の職員研修を実施した。授業研究については、校内だけでなく、外部との連携を考えていきたい。
			指導実践力の向上を図るため、研究授業及びその検討会（授業研究）等の機会を各教科とも年1回以上行う。	3.5	
			教科枠を越え、各教員相互に積極的に授業見学を実施し、自己の授業改善に活かす。	3.2	
(4) 現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会等で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質の向上を図る。	3	校外での研修参加や外部から講師を招聘しての研修は実施できなかったが、できる限りWEBを利用した研修会に参加したり、校内でZoomを利用した研修会を設定した。
			校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	3.2	
			講師を招き、校内研修の機会を設け、各自が其の資質向上に向けて務める。	3.2	
(5) 学校活性化	学校活性化のための教職員の取組	目標設定を行い、自校の活性化と各自の資質向上を目指す。	私立学校としての活性化策を提示し、その実践に努める。	3.3	教職員一人一人が創意工夫に努めているが、選ばれる学校になるために、より活性化できる改革が必要である。
			職員一人ひとりが、その能力に応じ、各分掌での職務に対し創意工夫に務め、改善を図る。	3.3	
			職員一人ひとりの適性に応じ、その能力が十分発揮されるよう、効果的な面談を実施する。	3.4	
			教職員相互の効果的な連携が図れるよう、互いの情報交換に務める。	3.3	

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価					
評価項目	具体項目	目標	指標・具体的方策	評価	成果と課題
(1) 学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	3.7	全校生徒・職員により、毎日15分間の清掃を実施、積極的に取り組んでいる。環境美化の意識については、通常の清掃活動はもとより、行事を通して徐々に高められている。省エネについても、校内設置の使用電力上限警告装置により、意識喚起につながっている。
			特別な清掃活動（大掃除・地域清掃活動等）を年3回以上実施する。	3.7	
			日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	3.5	
			省エネ運動を推進し、エアコン・電灯等の無駄な使用をなくす。	3.3	
(2) 施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備を図る。	3.4	「学校安全点検表」を用いて、教室管理責任者により、安全点検は確実にやっている。
			日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。	3.5	
			危機管理規程に基づき、具体的な事例を想定した「対応マニュアル」に則った対応がスムーズにできる。	3.5	
(3) 情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化（データベース化）に伴い、効率的な事務作業を行う。	3.7	生徒情報のデータベース化により、効率的な事務作業が行われている。個人情報保護の観点からも、情報管理は徹底している。
			パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。（情報管理マニュアルの徹底、USB等記憶媒体の管理）	3.5	
			諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	3.5	

5 開かれた学校づくり					
評価項目	具体項目	目標	指標・具体的方策	評価	成果と課題
(1) 保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	3.6	保護者との個人面談(三者面談)をはじめ、育友会(PTA)活動の機会、ホームページを通して、情報提供に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響で、育友会総会や授業参観等は中止となった。
			育友会(PTA)総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	3.8	
	育友会(PTA)活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育友会(PTA)活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	3.5	
			P T A関係の会議への参加率向上に努める。	3.4	
(2) 地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	各教科や部活動等において、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	3.4	長崎純心大学との連携は様々な事業を通して実施している。また、探究活動やグローバル教育活動において、南山高校と協働で活動することを競技していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実現できなかった。
			関係の深い中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	3.5	
			地域等からの苦情等に対し、適切に対応できる体制を整備し、速やかに改善を行う。	3.3	
	外部講師の活用	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う。	年間計画に基づき、平和学習・進路講話・交通講話等に外部講師を積極的に活用し、教育的効果を高める。	3.6	卒業生でもある純心大学生の交流証言者を招聘し平和学習を実施。生徒の心に響いた様である。
(3) 学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う	ホームページの更新を定期的に行い、学校情報の積極的発信に努める。	3.4	更新に関しては、他校と比べても充実している方である。より効果的なホームページを目指して、できるだけ動画を増やすなどの工夫をしている。
			学校情報の内容(諸活動)が、ホームページ更新に反映されるよう担当者との連携を図る。	3.3	
	情報公開企画の充実	学校の諸活動の紹介を通して、地域や保護者からの理解を得る。	学校方針や具体的な教育活動の内容について、適切な情報を地域や関係機関に提供するため、学校だよりを年2回以上発行する。	3.6	生徒募集の観点からも、情報発信は積極的に行っているが、まだまだ広報が足りないとの指摘は外部からもなされている。広報活動を更に活性化・充実化させていきたい。第1回オープンスクールは中止しWEBオープンスクールをホームページ上で実施した。
			ポスター配布や説明会の開催など適切な広報活動を行い、中学生の進路選択に関する資料を提供する。	3.6	
			学校の特色を感得・理解する機会としての体験入学(オープンスクール)を積極的に開催し、入学希望者の増加に努める。	3.5	
			校内の諸活動(学校行事等)を積極的に外部に発信し、地域や保護者そして卒業生にも「純心」の活動に対する理解を深めてもらう。	3.3	
学校評価	学校評価結果を通し、関係者へ	適正な学校評価結果を行い、以降の改善に生かす。	3.5	「PDCAサイクル」に乗せて、選ばれる学校を目指していきたい。今年度からWEBで実施した。	
		「学校関係者評価委員会」を設置し、より客観的な視点による学校評価を行う。	3.5		

6 これから求められる資質・能力の育成 本校独自の「教科横断型の探究的な授業」の研究開発に関する諸活動の成果の評価					
評価項目	具体項目	目標	指標・具体的方策	評価	成果と課題
純心中学校独自の「教科横断型の探究的な授業」の研究開発	「住み続けられる長崎を目指して」をテーマに、教科横断型の探究的な授業を研究開発する	主体的に学ぶ姿勢を身につける	<ul style="list-style-type: none"> アンケートと作文を実施（事前事後） 身近な課題を見つけ、「探究」のスタート地点に立つとはどのようなことか、体験するためのワークを実施 「住み続けられる長崎を目指して」探究活動を行う。長崎は住み続けられる街か様々な視点で長崎を考える長崎県内の施設見学及び施設関係者からの講話を実施し、情報収集を行う長崎の抱える課題に対し、県の取り組みを知る長崎に住み続けるために必要なものは何か、自分ごととして考え、課題解決の方法をつながりをもって考える 活動内容をアウトプットする。アウトプットする方法を書籍等で学ぶ。ロイロノートを用い、プレゼンを作成。発表会を実施。論文作成 	3.6	<p>県庁に出向き担当者から話を聞いたり、「これでいいのか長崎県」の編者からオンラインで講義を受けるなど、視点を広げることができた。</p> <p>文章にまとめたり、発表を繰り返す中で、表現力が身についた。また、他者の文章を読んだり、発表を見ることで、他者のよさを評価し、自分の学びにもつなげることができた。</p> <p>評価にルーブリックを用いることで、何が出来るようになればよいか明確になり、生徒が自身の成長を見ることができた。また、同じ視点での相互評価ができた。</p> <p>「問いを立てる」指導に難しさを感じた。教員側の指導力向上が望まれる。</p>
		多角的に物事を捉える視点を身につける		3.5	
		学びを教科を越えてつなげる力を身につける		3.4	
		気づきや学びを共有した上で、課題を見つけ出す		3	
		思考力・判断力・表現力を身につける		3.7	
		学びを社会に生かす力を身につける		3.3	
		適切な評価をもたらすルーブリックの作成		4	
		教員の指導力の向上		先進校視察	

3.44404

